

釧路南ロータリークラブ会報

第21回 例会報告 2013.11.29 通算1516回

・点 鐘 佐藤玄史会長

・ロタリーソング

「それでこそロータリー」



ソングリーダー 亀井 麻也会員

・入会記念祝

小川 拓也会員 H24. 11. 30 (1年目)

・会長挨拶



こんにちは、11月最終例会で「ロータリー財団月間に因んで」長江委員長に報告をうけますので協力お願い致します。少し自分自身の最近の状況をお話したいと思います。それは、身体能力の低下ですが一般的に老化現象で片付けられてしまいますが“物忘れが多くなる”“記憶力の低下”体力、筋力の低下、等年齢を増すごとに感じます。

われわれの周りでの高齢化が進んでると感じます。このような老化現象を止めることはできませんが少しでも遅らせる努力が必要だと思います。それには、「運動をする」「身体を鍛える」「何事にも興味を持つ」「目標を持った行動」「不得手なことに挑戦する」「食べ物、飲み物」にも、気を使う、等のほかにもあると思いますが、今一番おそれているのが「認知症」いろんな脳軟化症に、最後に、ロータリーの参加がひとつの薬かな。と、何かいい薬があったら教えて下さい。人生100才の時代へ

・幹事報告



- * 釧路ベイRCより会報と12月例会プログラム並びに釧路東・釧路西・釧路北各ロータリークラブより12月例会プログラム案内を拝受しております。
- * 第4回日台ロータリー親善会議への参加、ご案内が来ております。開催日は2014年1月26日(日)で登録料は会員15,000円・家族10,000円で来ていますが3日間と4日間のツアーがあり、第1次締切日が来月12月27日(金)となっております。JTBのプランと料金が記載されております。
- * 11月1日第1例会と11月22日の第4例会で報告しました、2014年国際ロータリー次年度シドニー大会参加の登録および、チケット申込書式と登録手続き方法の案内が来ております。

* 2013年12月のロータリーレートは1ドル=100円です。年内にご寄付を予定されている会員の方は12月20日までにとお願いのご連絡と、寄付送金明細書が届いております。以上回覧板に載せてあります。

・委員会報告

親睦委員会

- ・本日のニコニコ献金
小川 拓也会員 入会記念祝として

・本日のプログラム

「ロータリー財団月間に因んで」

担当 ロータリー財団米山委員会

◆長江 勉委員長



今月は財団月間です。ロータリー財団は、1917年に基金として発足しました。「世界で良いことをしよう」を標語として発展途上国への支援を目的としています。以前、ロータリークラブは、親睦団体で慈善団体ではないとの意見が主流でしたが、ロンドン・バートン今年度RI会長は、はっきりロータリークラブは「世界一の慈善団体」であることを強調しております。この件につきましては意見の分かれるところでもございます。今年から始まった「未来の夢計画」に賛同して頂けるよう卓話などを通じて100\$の寄付を会員の皆様をお願いしたいと思います。宜しくお願い致します。私たちは世界で一番恵まれた環境の中で生活をしていると思います。発展途上国では、困っている人たちがたくさんいます。我々の善意で多くの人たちが救われております。このようにロータリー財団の寄付は大切に活用され

ております。

今年度からスタートした「未来の夢計画」などについて私も余り詳しい知識を持っておりませんので、PETS・地区協議会、第4分科会ロータリー財団・VTTなどの研修セミナーの報告書が届いておりますので、報告書などを基に発表させて頂きたいと思っております。若干重複するところもあるかと思いますが宜しくお願い致します。

笹谷 芳夫 ロータリー財団副委員長

報告書の中から

昨今、「未来の夢計画」という名前がよく出てくると思いますが、中には初めて耳にする方もいるかと思っております。2013-2014年全世界に約530地区あります。その全地区で、今まで三年間の試験期間というのがありました。それを終えて、今年度7月1日より未来の夢計画というのが始まっております。突然なぜロータリー財団にこういう計画が出てきたのかと思われる方もいらっしゃると思いますが、決してそういうことではないということをおっしゃって説明させていただきたいと思っております。未来の夢計画、「Future Vision Plan.」FVPという呼ばれ方をしています。2005年にロータリー財団の管理委員会といって、ほとんどRI会長や日本では有名な小沢一彦さんなどが管理委員を務めております。そこで未来の夢計画という委員会を設置して、財団プログラムを見直そうという取り組みです。これはよく3つの入り口、18の出口という言い方をします。3つの入り口というのは、年次基金寄付、要するにポールハリスフェローというみんなで毎年100ドルをというものです。それと恒久基金、ベネファクターです。そしてポリオ・プラスや、マッチング・グラントなどプログラムを指定して寄付する。この3つの寄付は大きくは変わりませんが、財団のプログラムのほうを大きく変えていこうということです。そして主たる目的が、持続性を重視するようにしようということで2005年11月に世界中にアンケートを実施いたしました。これで約1万人がそれに対して答えました。これをベースにしていろいろな計画を練ってきました。2006年10月、未来の夢計画を管理委員で承認。それで規定審議会というのは日本全国34地区あるのですが、34地区すべての総まとめ役が昨日シカゴに出かけた小船井さんであり、大変重責を

担っています。この規定審議会というのは国会や地方議会、要するに決議機関です。そこで、この未来の夢計画が採択されました。2008年2月、これが承認されました。一応 RI 理事会の下に財団があるということでございます。RI 理事会のほうでも承認をもらいまして、約 530 地区の中から 100 地区を選考して、試験期間にこの未来の夢計画を実際にやってみてどうだったかということで選ばれました。2500 地区も立候補したのですが、当地区は選考から漏れました。日本は 3 ゾーンありますが、1 ゾーンの中から 2 地区、2 地区、2 地区と 6 地区がパイロット地区として選考されます。ではなぜこのようなことが必要なのかといいますと、当初ロータリー財団というのは奨学金制度で始まりました。有名なところでは、日本で二人目の財団奨学生だった緒方貞子さんが JICA の理事長をこの前やめられたと思います。あの方が東京ロータリークラブ推驚で、日本人で二人目の財団奨学生として派遣されました。今でもあらゆる場でロータリーの奨学生でアメリカに行っていて、その後もいろいろな活躍するきっかけになったということは非常に感謝しております。また、ロータリーでも非常に誉であるということでいろいろな表彰をされております。この奨学金制度がだんだん変質していきまして、日本ではロータリー財団奨学金に金を使ってるんだという言い方をしますけど、世界の体勢を見るとまるっきり 180 度違うのですね。財団奨学生国際親善奨学生といいますけど、これの世界の 3 分の 1 が日本から海外への派遣なのです。残りはアメリカとイギリスで大半を占めるということで、世界的に見ると隔たりが顕著になりました。それから日本から特に多いのは、海外に語学留学や音楽などの文科系奨学生が非常に多くなりまして、本来の親善使節としての役割じゃなくて自分を高めるためにといった傾向が強くなりました。だから見直しがスタートしたと考えてかまわないと思います。

最も重要視されていることに、持続性というものがあります。ここが深く言えば決議 23-34 とまったく逆行する話なのです。持続性を持っては駄目だというのが決議 23-34 です。ですから RI や財団が決議 23-34 を消したがついていっているのはこういうことです。具体的に持続性というのは、補助金を使った後もそのプロジェクトの影響が続くように

社会的、技術的、多面的に受け継がれる可能性。それから地元の力をもっと活用しようとか、環境を悪化させない。多くの人のためになる。奨学生は単に自分を高めるような奨学生ではなく、6 つの重点分野に斬新的に貢献できる奨学生に絞ろうという傾向です。そして地域、職場で影響力を発揮する。それから草の根レベルでのグループの力を活用するようにしようというのが持続性ということの定義です。先ほど言いました 6 つの重点分野というのが、要するに人道的分野に大きく財団が舵をきった。未来の夢計画というのは 6 つの重点分野に尽きると思っただけかまわないと思います。非常に日本にとっては違和感の多い分類だと思います。まずは「平和と紛争予防、紛争解決」。二番目に「疾病予防と治療」ですが、これはいいです。それから「水と衛生」別に日本全国どこでも水道の蛇口をひねれば飲める水が出てきます。「母子の健康」。これも保健センターとかいろいろなところがございます。五つ目の「基礎的教育と識字率向上」に至っては、日本は世界で最高の読み書きできる国です。それから、「経済と地域社会の発展」も日本は落ちぶれたとはいえ、いまだに世界第三位の GNP を誇る国です。これはほとんど日本とはあまり関係ないテーマなのです。要するに途上国、当初ロータリーのいろいろな財団も含めてロータリーのある東西の国同士がお付き合いする。例えば日本とアメリカ。アメリカとヨーロッパ。ヨーロッパと日本。GSE なんかもそうですけど、親睦といいますか友情効果のような事業のほうが多かったのですけど、この未来の夢計画を契機として 180 度人道的分野に大きく舵をきったのです。ここ 15 年ロータリー財団に関わっておりますけど、国際ロータリーではなくて国際赤十字に限りなく近づいた気がするような内容になっています。ポリオにしてもそうです。ロータリー財団から発祥して RI のテーマになりましたけど、財団と RI の協同プログラムという位置づけになっております。そして三つのプログラムがあります。一つは地区補助金。これは皆さん方のいる地域の社会にいろいろもう 10 年以上になりますので地区補助金ということでご納得いただけるかと思っております。これが三年前のポールハリスフェローなどの年次寄付と、恒久基金(ベネファクター)という基金の利息の 50%。当地区ではだいたい年次寄付というのは年間 20 万ドル前

後なので、その半分が返ってきますので 10 万ドルが返ってきます。その 10 万ドルのうちの 50%ということですから 5 万ドルですけど、葎本年度は 4 万 5000 ドルが地区補助金として自由に使えるということになりました。それからグローバル補助金というのが海外のクラブや地区と一緒にする事業です。これは以前のマッチング・グラントとよく似ているシステムです。今年、今日ご出席ですが釧路ロータリークラブさんにタイとのマッチング・グラントを一新していただきました。一つずつ各クラブにこういう事業に参加してもらうことによって、より草の根的な事業にしていくのが使命だと考えております。

当地区の DDF の振り分けですが、おおよそ年間 20 万ドルということで、平均うちは 100 ドルちょつとなのですがそうすると 20 万ドルで。これはこの年はちょっと少ないのですが、地区補助金として 4 万 5000 ドル、約 40 万円前後ですけど、今は円安ですので実際に支給される時はもう少し多くなるかもしれません。それからグローバル補助金の資金として 5 万ドル準備するようにしています。地区補助金の分區別の振り分けですがこれは過去の寄付実績と会員数を両方かけ合わせて分区ごと分けた金額です。これをガバナー補佐にどのような使い方をするかと腐心しておりますが、地区の方針としては、例えばどこかのクラブが今年 20 万円使いたいといったときに、補助金だけでなく自分のクラブも 20 万円だし 40 万円の事業にするような使い方をしたい。これが地区財団委員会としての方針であります。そのほかに、地区補助金の中で海外への留学生に奨学金を当てることもできるのですが、地区としては奨学金には当てないことにしました。そのかわりといっちはなんです、地区内の進学希望者で進学が困難な学生への奨学金を制度化することにいたしました。それと地区財団委員会用の予備資金 50 万円。これはいろいろな意味での調整が必要なときにこのお金を使うというような予算を増やしました。

注意事項です。今度、未来の夢計画になってから補助金管理セミナーに参加していないクラブは、地区補助金とグローバル補助金を申請することはできません。これは財団のほうのルールでそうなっております。また、覚書(MOU)を提出していないクラブ

も申請はできません。それから財団寄付ゼロクラブ。これは後で質疑応答の時間にでもお話ししますが、これも原則申請資格は無しということになっています。

以上、笹谷ロータリー財団副委員長の報告でした。

福井克美 VTT チームリーダー

報告書の中から

昨年度までは、GSE 委員会ということでしたが今年度からは VTT 委員会にかわります。VTT 委員会は、私以外に 4 名の委員がおりまして、美幌と北見、清里、旭川という 5 名体勢で今進めております。この二年間、GSE 委員会は何をやっていたんだということになりますが、決して遊んでいたわけではありません。一度足立ガバナーのときに GSE 委員会をやろうかということだったのですが、先ほど笹谷さんからお話しがあったようにパイロット地区が全世界で 100 地区、日本で 3 地区です。残念ながらこの 2500 地区が選ばれなかったのですね。パイロット地区同士だと VTT が試験的なプログラムとして実行できたのですが、選ばれない地区と選ばれたパイロット地区、3330 地区はパイロット地区だったものですから。いろいろな縛りがあって上手くいかないということから、とりあえず準備期間という形で前年度から笹谷さんには 3330 地区に飛んでいただいて、現地の情報を調査しながら今日の準備に至ってきたわけです。そして今回は、やっと話がまとまりまして去年の 11 月に団員募集して VTT チームが派遣の段取りができたという状況にあります。まず、職業研修を通してお互いの職業人を派遣したり受け入れしたり、そういう形で事業プログラムを行っていくこととなります。新年度から夢計画が実施されるということから、今までよりもっと計画的な財団実現に向けて補助金制度がだんだん変わってきました。そして職業研修チーム・VTT が使える新しい補助金も出まして、一つ目に地区補助金、二つ目にグローバル補助金、三つ目にパッケージ・グラントとなっています。新地区補助金は、今までは GSE のような形のいろいろな職業の方たちが現地で交流を深めたり、あるいはいろいろな事業をしたりすることができるのですが、グローバル補助金の場合と違って海外のクラブや地区の協力といった必須条件がない。そしてなおかつ、人数や期限の制約もありません。

